



山口県内の経済情勢

令和6年8月6日

財務省中国財務局
山口財務事務所



ざいちゅう

本調査についてのお問い合わせ先：
財務省中国財務局山口財務事務所
財務課長 石田

TEL：(083)922-2190(代)

HP掲載先：

[https://lfb.mof.go.jp/chugoku/yamaguchi/
chousatoukei/jouseitop.htm](https://lfb.mof.go.jp/chugoku/yamaguchi/chousatoukei/jouseitop.htm)



調査結果は、こちらからも
確認できます。

1. 総論

【総括判断】

「県内経済は、緩やかに回復しつつある」

項目	前回（6年4月判断）	今回（6年7月判断）	前回比較
総括判断	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	→

（注）6年7月判断は、前回6年4月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、緩やかに回復しつつある。生産活動は、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。雇用情勢は、緩やかに改善しつつある。

【各項目の判断】

項目	前回（6年4月判断）	今回（6年7月判断）	前回比較
----	------------	------------	------

個人消費	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	→
生産活動	持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている	持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている	→
雇用情勢	緩やかに改善しつつある	緩やかに改善しつつある	→

設備投資	5年度は前年度を上回る見込み	6年度は前年度を上回る見込み	→
企業収益	5年度は増益見込み	6年度は減益見込み	↘
企業の景況感	「下降」超に転じる	「下降」超幅は縮小	→
住宅建設	前年を下回る	前年を下回る	→
輸出	前年を上回る	前年を上回る	→

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、欧米における高い金利水準の継続や中国における不動産市場の停滞の継続に伴う影響など、海外景気の下振れが県内経済の景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「緩やかに回復しつつある」

百貨店・スーパー販売、ドラッグストア販売は飲食料品などが堅調であることから、前年を上回っている。

コンビニエンスストア販売は弁当など、家電大型専門店販売はパソコンなど、ホームセンター販売は電気製品などが低調であることから、前年を下回っている。

また、乗用車販売は、軽乗用車などが低調であることから、前年を下回っている。

(主なヒアリング結果)

- 料理の手間を省き、家事に時間をかけなくなっているほか、物価高の影響により外食から中食にシフトする傾向が強まっており、総菜の売上が伸びている。(スーパー)
- 気温の上昇に伴い、飲料、アイスクリームなどがよく売れているほか、ハンディファンや冷感タオルなどの熱中症対策商品の売上也伸びている。(ドラッグストア)
- 原材料価格の高騰により商品価格が値上がりしているため、弁当などの売上が低調となっている。(コンビニエンスストア)
- 在宅ワークによる需要増加の反動で、パソコンは前年割れの低調な状況が続いている。(家電大型専門店)
- 平年と比べて梅雨入りの時期が遅かったことから、除湿器などの湿気対策商品の売上が低調であった。(ホームセンター)
- 一部の自動車メーカーが認証不正問題により生産及び出荷を停止した影響を受け、軽乗用車などの販売台数が減少している。(自動車販売店)
- 海外メディアに取り上げられたことで山口市への注目度は高まっており、海外からの宿泊客が徐々に増加している。(宿泊)

■ 生産活動 「持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている」

輸送機械は、海外での SUV 車種に対する需要が堅調なほか、汎用・生産用・業務用機械は、産業用ロボットなどの需要が堅調となっており、鉄鋼は、半導体製造装置向けなどで需要が回復していることから、増加している。

化学は、医薬品の減少に加えインフラ向けなどの需要が低調なことから、減少している。

- 海外での SUV 車種に対する需要が堅調なほか、新型車を投入したことなどから、生産量が増加している。(輸送機械)
- 物流業界の人手不足問題への対応策として、商品の運搬などを行う物流ロボットに対する需要が高まっていることから、生産量が増加している。(生産用機械)
- 半導体市況が底を打ち、半導体製造装置向けの需要が回復していることから、生産量が増加している。(鉄鋼)
- 人件費や資材価格の高騰による建設コストの上昇などにより建設需要が低迷していることから、インフラ向けの生産量が減少している。(化学)

■ 雇用情勢 「緩やかに改善しつつある」

有効求人倍率は、全国平均を上回り引き続き高めに推移している。

新規求人数は、卸売・小売業などで減少しており、前年を下回っている。

- 新卒採用にあたり、インターンシップの実施や就職フェアへの参加は積極的に行っているものの、他社との人材の取り合いが激しくなっており、過去に経験したことがないほど採用活動が難航している。(小売)
- 募集を出しても応募がないなど人手不足が深刻化しており、一人当たりの業務量が増加している。(宿泊)

■ 設備投資 「6年度は前年度を上回る見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」6年4-6月期

- 製造業は、情報通信機械などで減少するものの、化学、電気機械などで増加することから、全体では前年度を上回る見込みとなっている。
- 非製造業は、卸売などで増加するものの、宿泊・飲食サービス、小売などで減少することから、全体では前年度を下回る見込みとなっている。

- カーボンニュートラルの実現に向けて関連設備を新設するなどの設備投資を進めている。(化学)
- 前年度は旅館の大規模リニューアル工事を行ったことから多額の設備投資となったものの、今年度は設備の維持更新が中心となるため、前年度と比較すると設備投資が減少している。(宿泊)

■ 企業収益 「6年度は減益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」6年4-6月期

- 製造業は、パルプ・紙などで増益となるものの、化学、電気機械などで減益となることから、全体では減益見込みとなっている。
- 非製造業は、小売などで増益となるものの、建設、運輸・郵便などで減益となることから、全体では減益見込みとなっている。

■ 企業の景況感 「『下降』超幅は縮小」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」6年4-6月期

- 企業の景況判断BSIは、「下降」超幅が縮小している。なお、先行きは「上昇」超に転じる見通しとなっている。

■ 住宅建設 「前年を下回る」

- 新設住宅着工戸数は、持家、貸家が減少していることから、前年を下回っている。

■ 輸出 「前年を上回る」

- 輸出(円ベース)は、自動車、一般機械などが増加していることから、前年を上回っている。地域別では、北米、アジアなどで増加している。
なお、輸入(円ベース)は、原油及び粗油、石炭などが減少していることから、前年を下回っている。地域別では、中東、大洋州などで減少している。

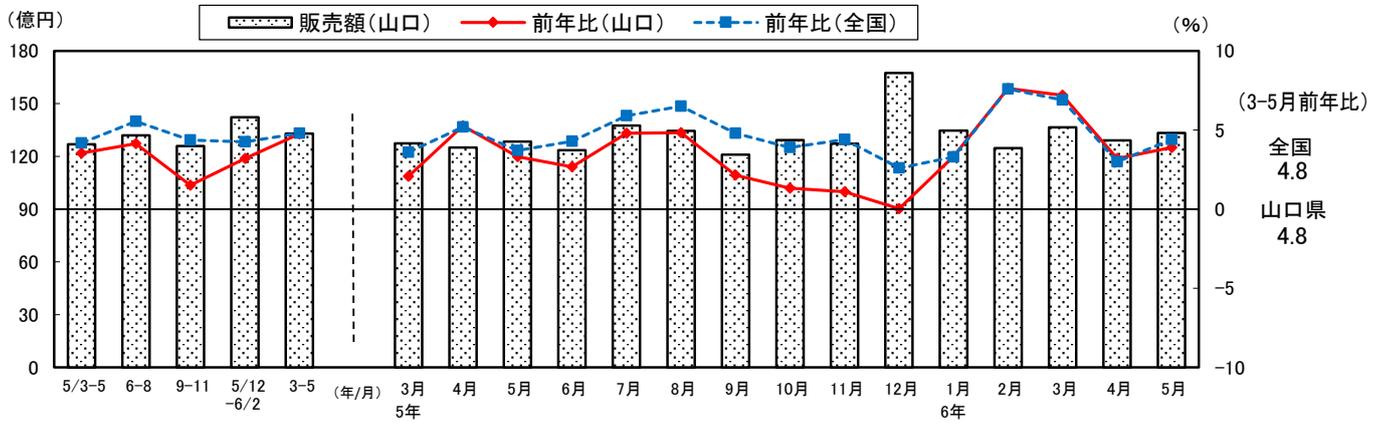
資料編

目次	ページ
1. 個人消費	1
2. 生産活動	3
3. 雇用情勢	4
4. 設備投資	5
5. 企業収益	6
6. 企業の景況感	6
7. 住宅建設	6
8. 輸 出	7

1. 個人消費 緩やかに回復しつつある

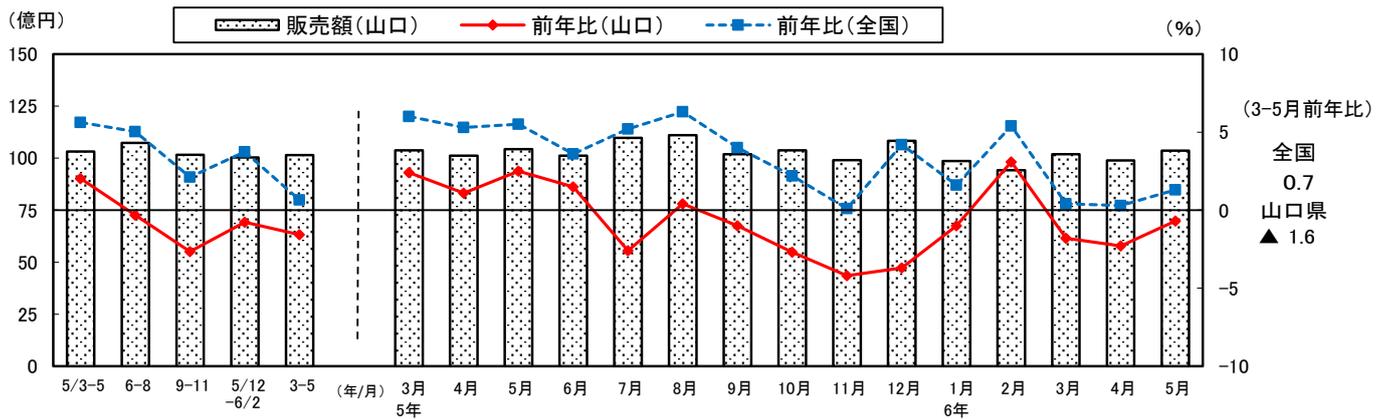
(1) 百貨店・スーパー販売額(全店舗)

(注) (1)～(5)の各グラフの3か月毎の販売額は、1月あたりの平均を表示。



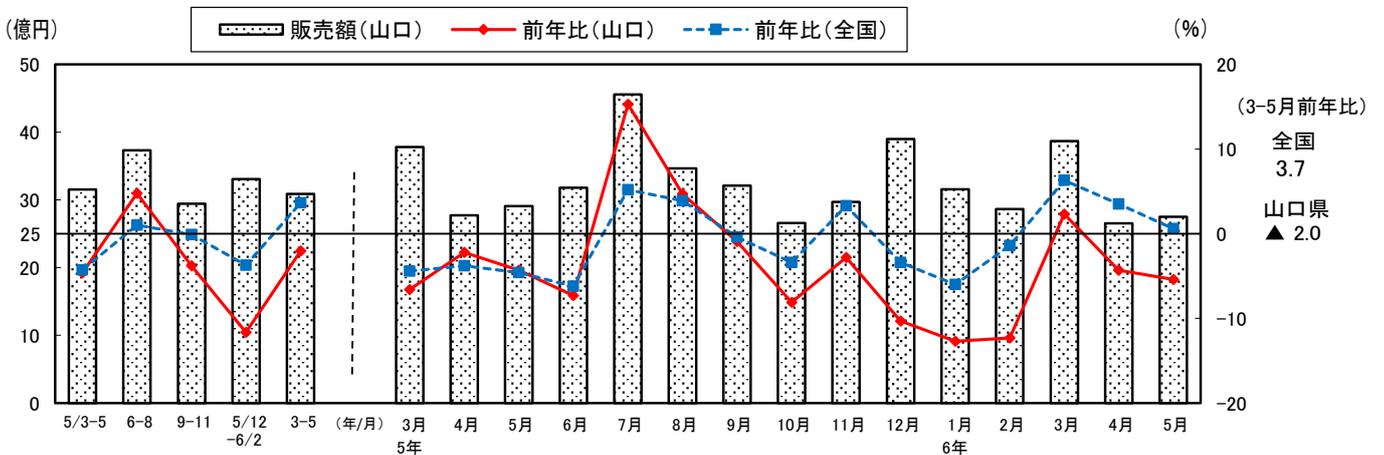
(資料出所: 経済産業省、中国経済産業局)

(2) コンビニエンスストア販売額(全店舗)



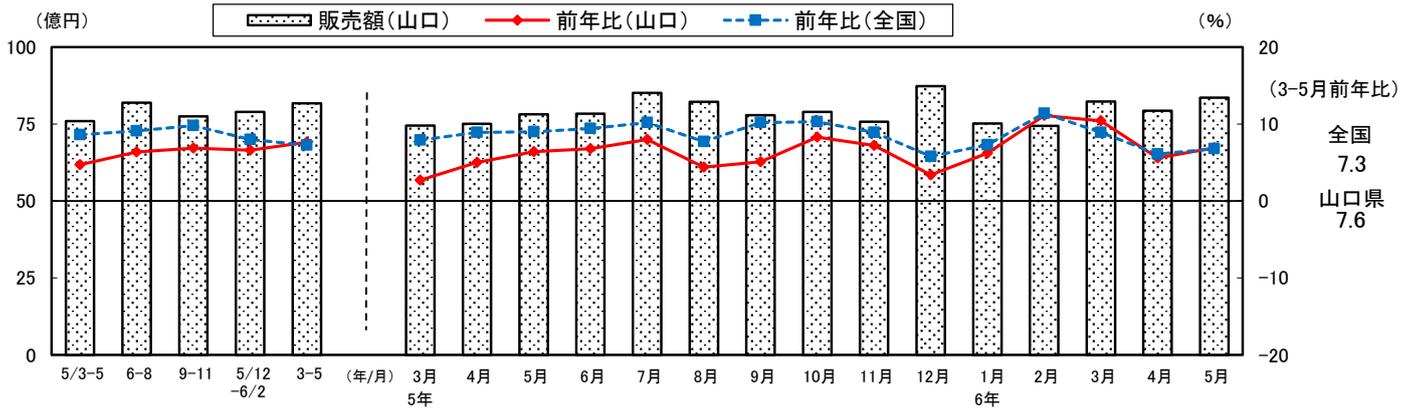
(資料出所: 経済産業省、中国経済産業局)

(3) 家電大型専門店販売額(全店舗)



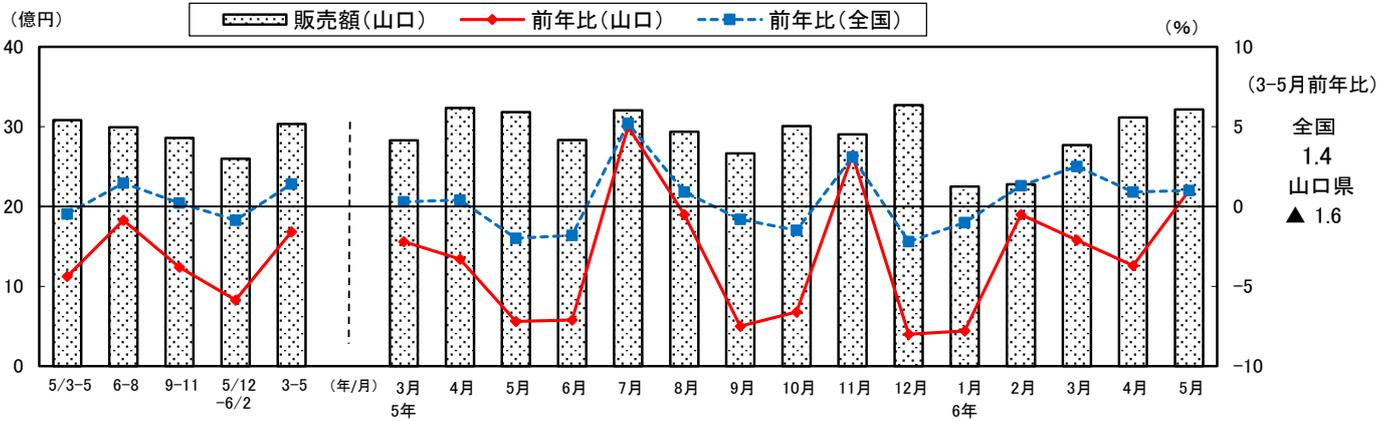
(資料出所: 経済産業省、中国経済産業局)

(4) ドラッグストア販売額(全店舗)



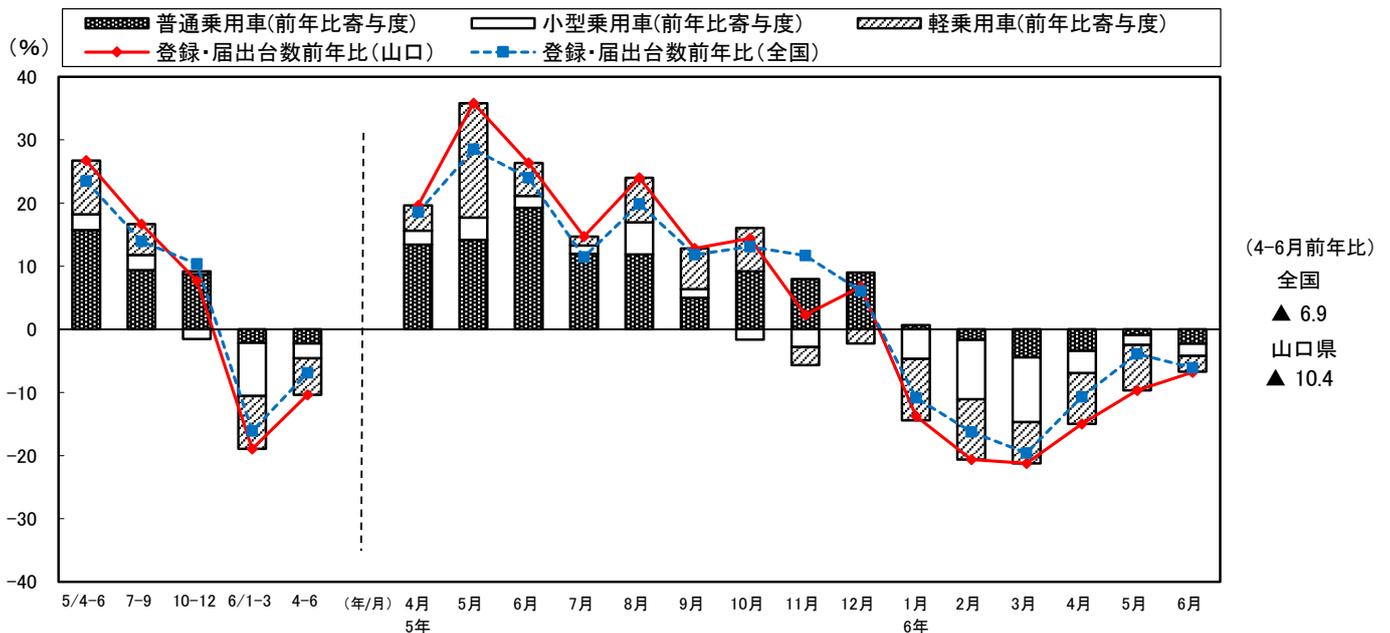
(資料出所: 経済産業省、中国経済産業局)

(5) ホームセンター販売額(全店舗)



(資料出所: 経済産業省、中国経済産業局)

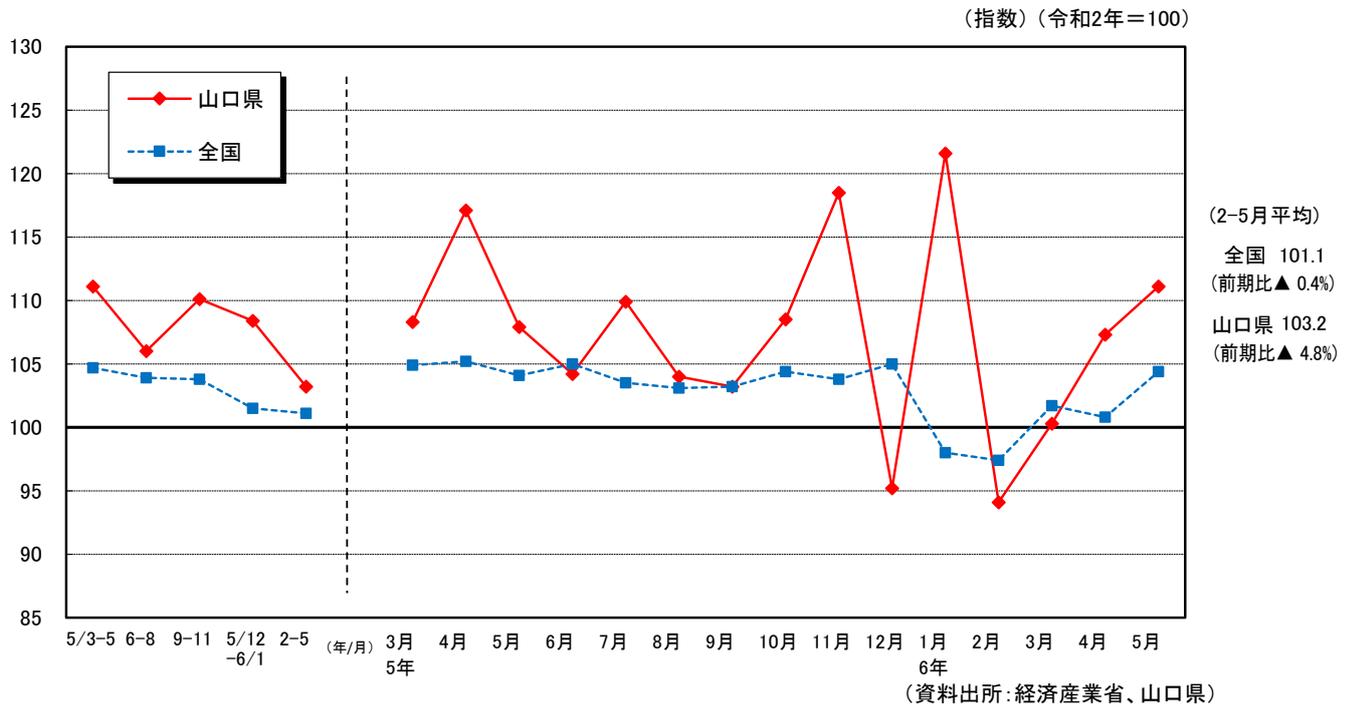
(6) 乗用車販売(新車登録・届出台数)



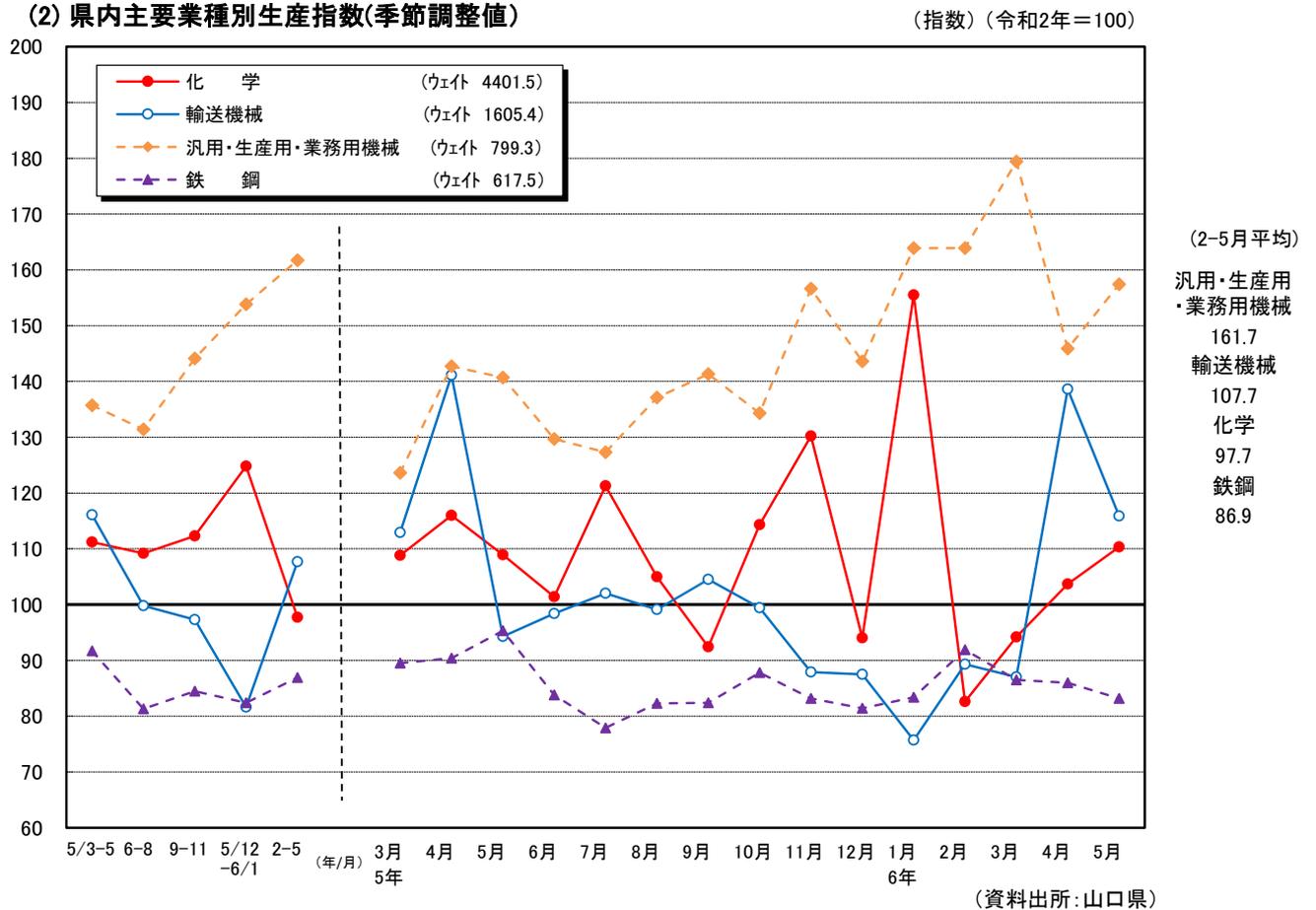
(資料出所: 中国運輸局)

2. 生産活動 持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている

(1) 鉱工業生産指数(季節調整値)



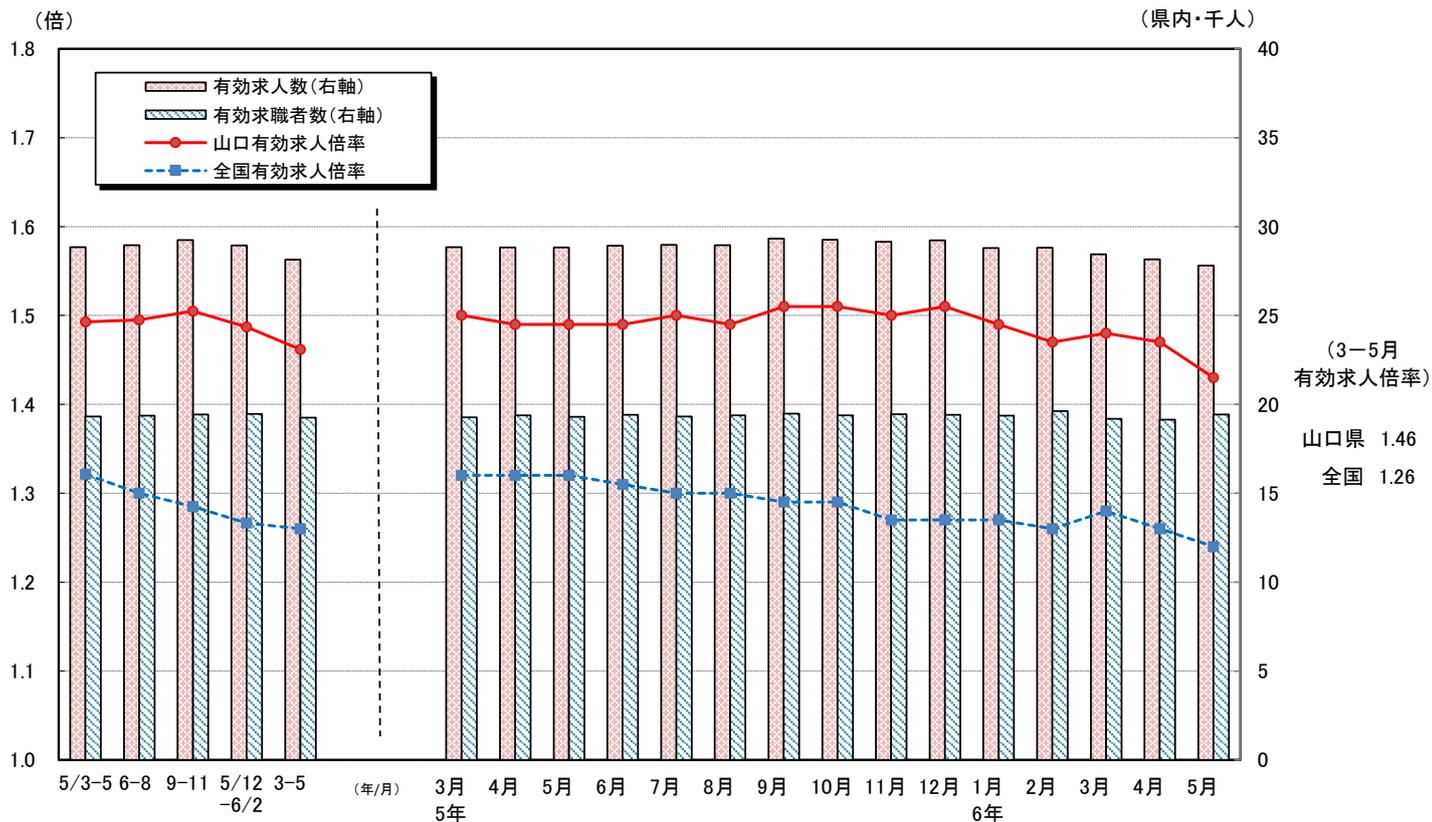
(2) 県内主要業種別生産指数(季節調整値)



3. 雇用情勢 緩やかに改善しつつある

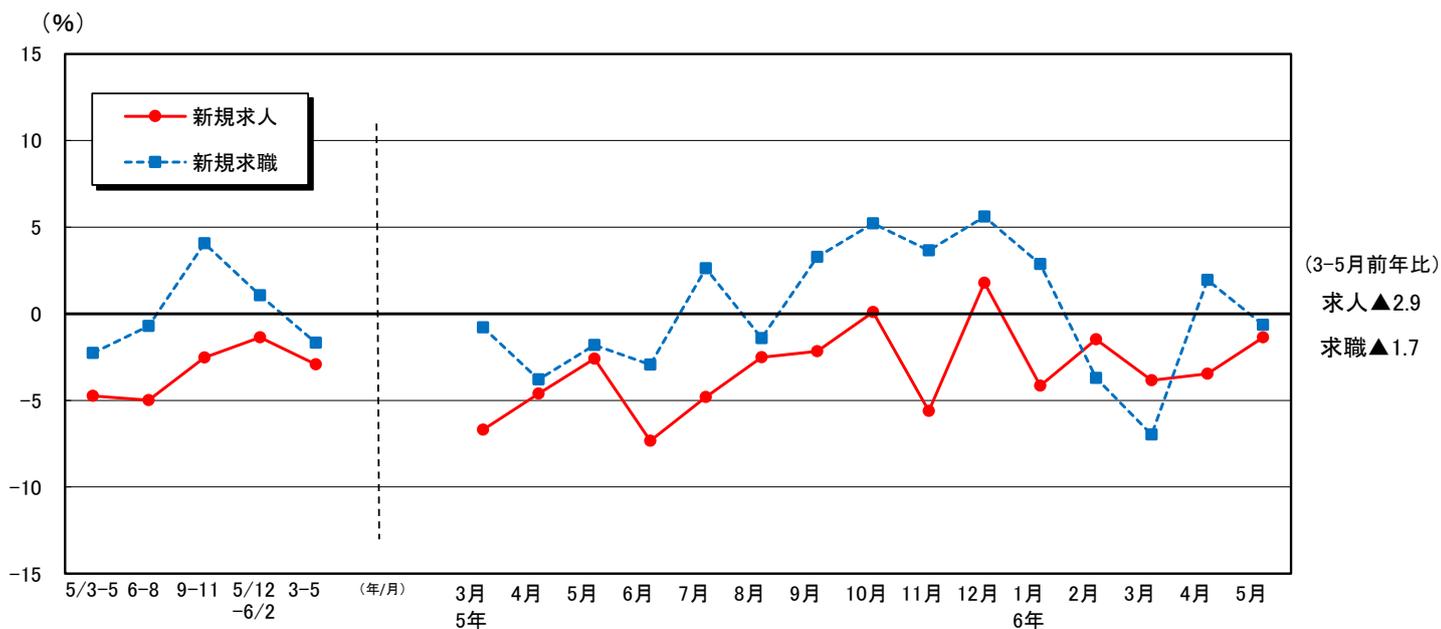
(注) (1)のグラフの3か月毎の有効求人数と有効求職者数は、1月あたりの平均を表示。

(1) 有効求人倍率、有効求人数・求職者数(学卒を除く、季節調整値)



(資料出所:厚生労働省、山口労働局)

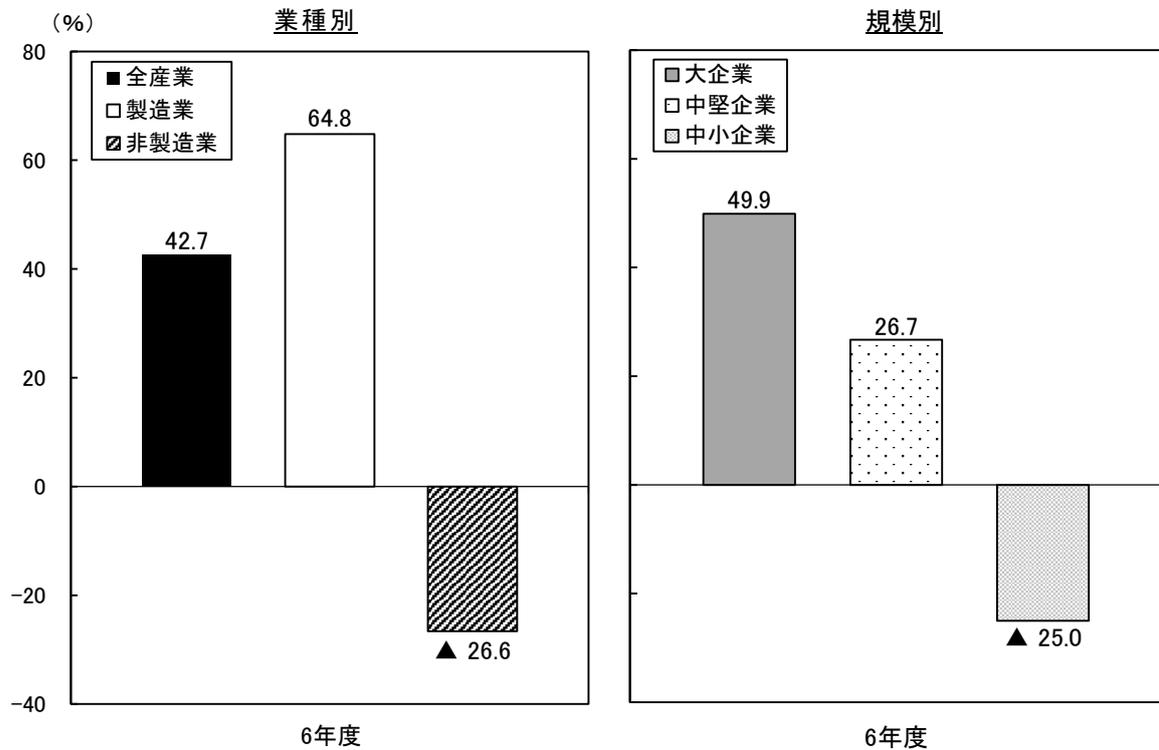
(2) 県内新規求人数・求職者数(学卒を除く、原数値)の前年比



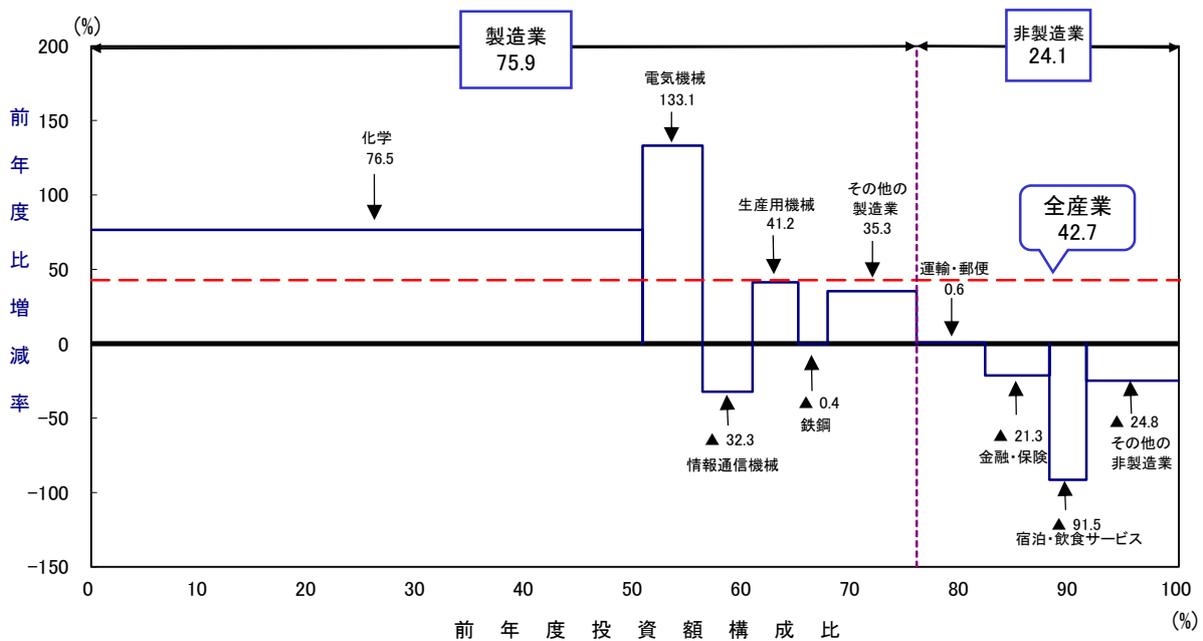
(資料出所:山口労働局)

4. 設備投資 6年度は前年度を上回る見込み

(1) 設備投資額(前年度比)



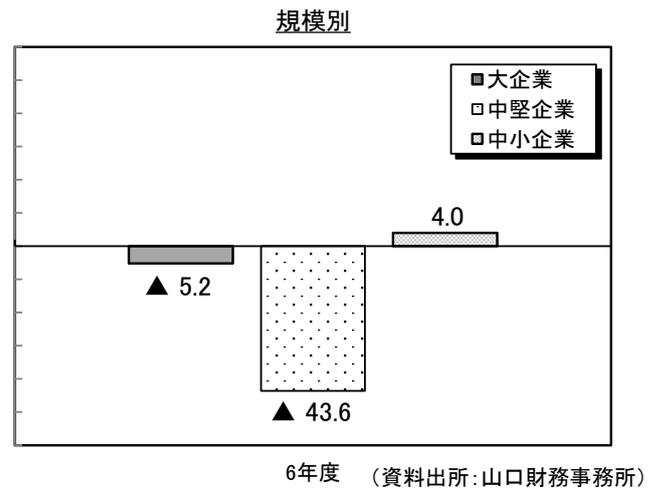
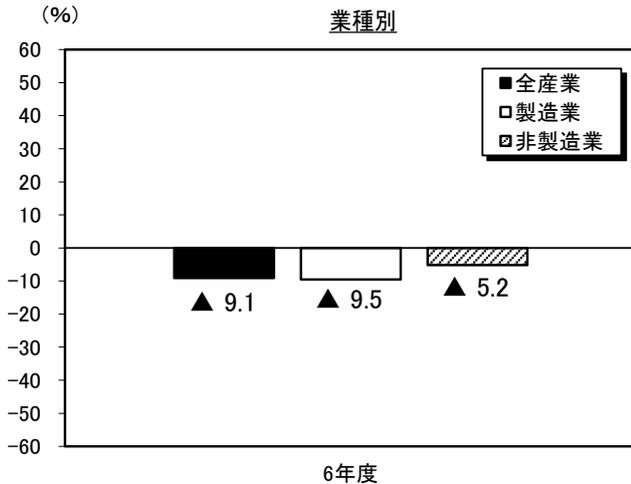
(2) 主要業種別(6年度)



(資料出所: 山口財務事務所)

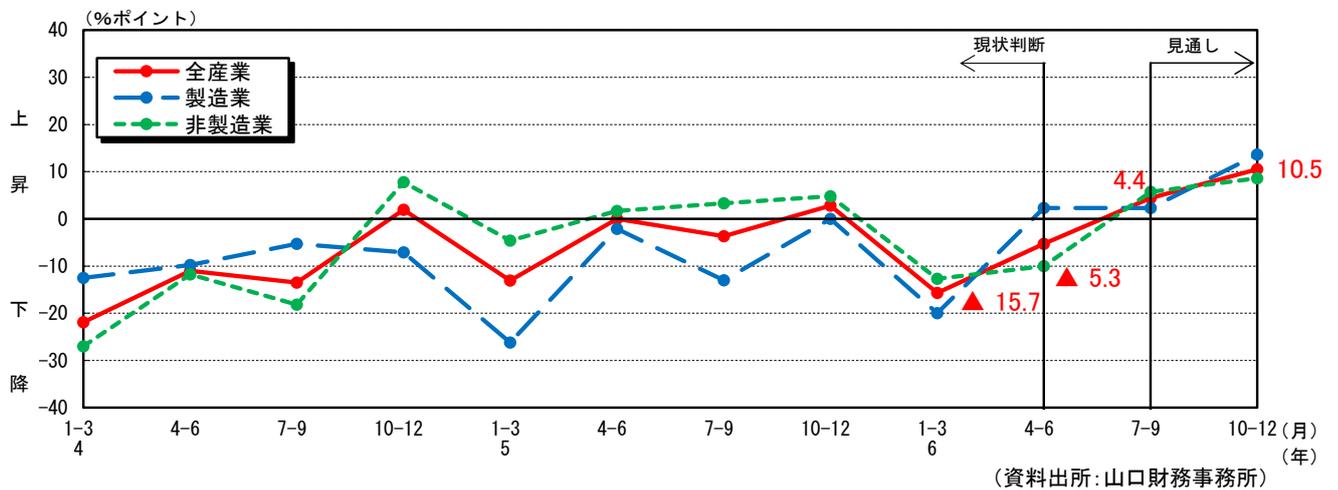
5. 企業収益 6年度は減益見込み

経常利益(電気・ガス・水道業、金融業、保険業を除く:前年度比)



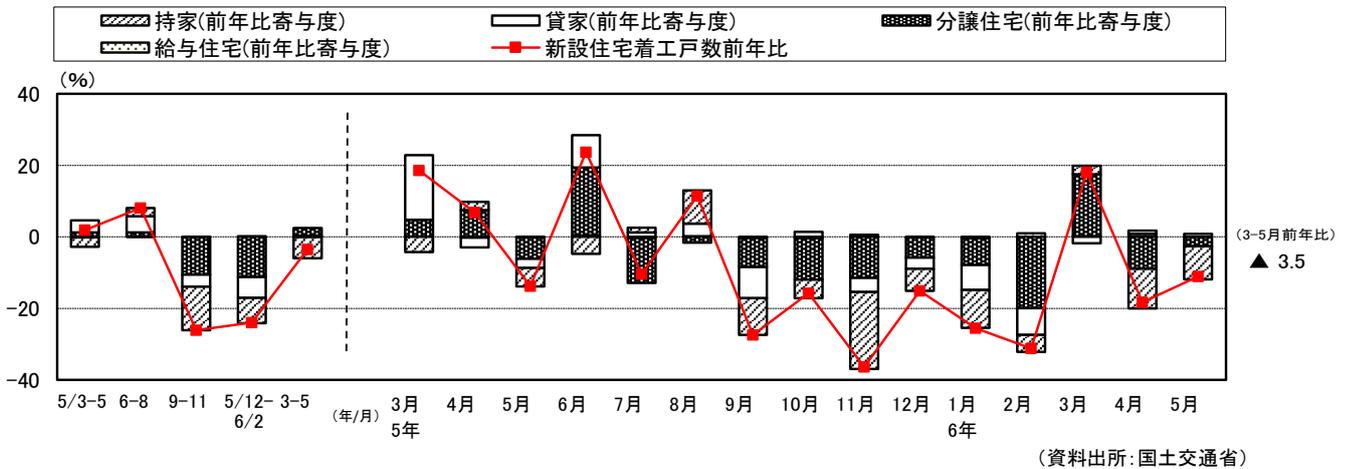
6. 企業の景況感 「下降」超幅は縮小

景況判断BSIの推移(原数値)(BSI: 前期比判断「上昇」「下降」社数構成比)



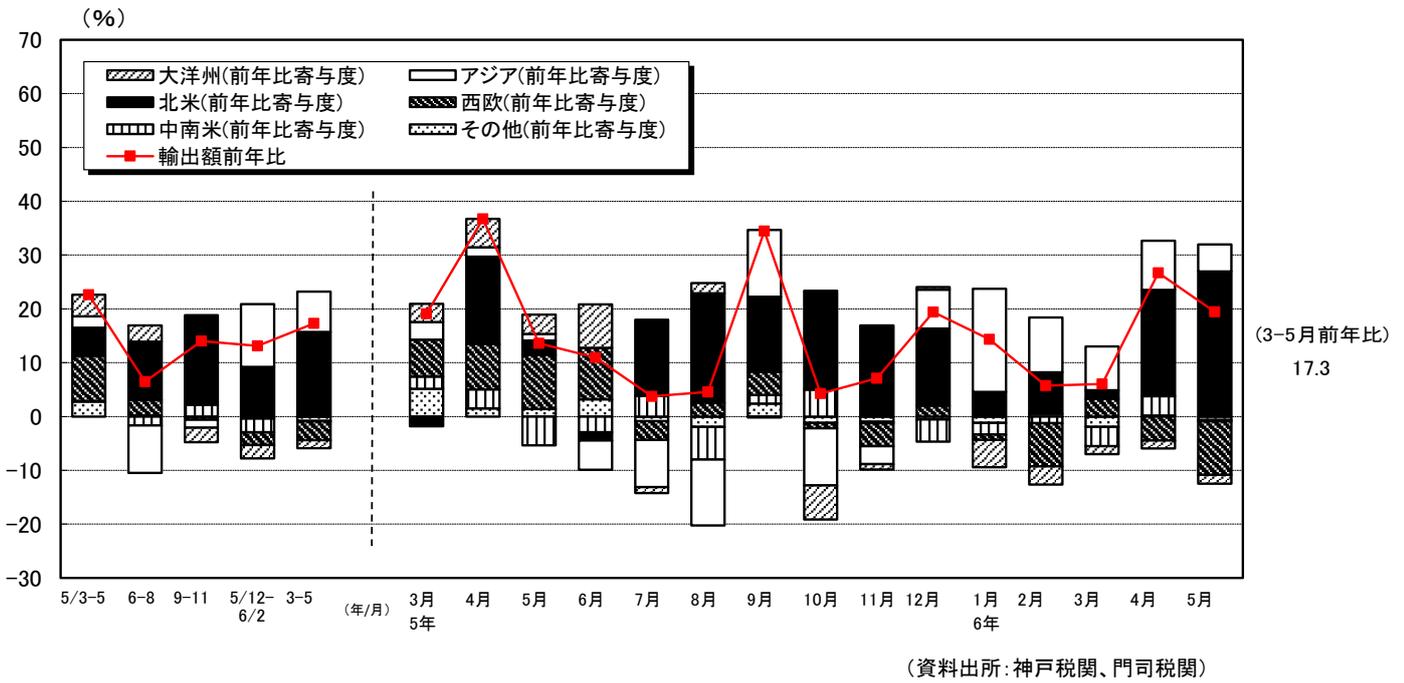
7. 住宅建設 前年を下回る

新設住宅着工戸数(前年比)



8. 輸出 前年を上回る

輸出(円ベース)



<参考>

輸入(円ベース)

